【ウィキペディア】になかなか良いことが書かれていたのでご紹介します。

*_*_*_*_*_*_*_*_*_*

グローバル・スタンダードは、国際標準から派生して生まれた言葉であり、比喩的な表現である。「グローバル・スタンダード」という言葉が、日本で多用されるようになったのは1997年以降であり、日本国外ではあまり使用されない和製英語といわれている。

みずほ総合研究所は「グローバル・スタンダードという言葉は、国際標準に類似した概念を、工業規格・会計基準などにとどまらず、企業活動・マネジメント手法・経済システムなどにまで対象を拡張させて使用されている。注意する必要があるのは、経営手法・経済システムに市場占拠率などなく、国際的な取り決めによる一定の標準・ルールがあるわけではない」と指摘している。

*_*_*_*_*_*_*_*_*_*

つまり何も知らない相手に対してこの言葉を使えば、軽蔑や従属の意図的なものとなり、それが存在していると思いついて使っていれば「虎の威を借る狐」状態だということです。

どうも、日本人は自分たちがこの「グローバルスタンダード」なるものから外れていると思いついていて感じます。英語ができないとか、西欧文化と違うとか、日本的経営だとかという劣等感のようなものです。

是非、来年は「グローバルスタンダード」という呪縛から解き放たれて下さい。

対等な意識がなければ、いつになっても正しいコミュニケーションはできません。

かなり前ですが、後輩がある展示会で説明員をしているときに「外国人が来た」と困った顔をして私を探しに来たことがありました。彼は英語が苦手だったのです。

そのとき、彼にアドバイスしたことは「日本の展示会に来たのだから、大きな顔で平然と日本語で話してやればよい！それで『相手が申し訳ない日本語は分からないので英語で話してくれますか？』と言ってきたら、JUST MOMENT PLEASE.と言って英語の分かる奴を連れて来ればよい。たかが英語が苦手くらいで、初めから自分を下におくな！」でした。

英語は使えるようにならなくてはなりません、だからと言って自分を卑下しては、対等なコミュニケーションは取れませんから。

┌

| 2 | 勉強会・セミナー等のご案内 [事前申し込み要]

└

先週からご案内しているように、来年2016年の1月21日(木)の勉強会にゲストとして株式会社NTTデータの人事部 兼 グローバル事業本部グローバルHR担当部長の田中 一郎さまにご登壇頂くことになりました。

タイトルは「多国籍体制の組織づくり～M&Aで獲得した海外人材の活用」です。

私自身とても楽しみにしております。是非、お早めにお申し込み下さい。

その後は、私から「30分間で外国人とコミュニケーションができる”英語もどき”」のお話を致します。ルール破りの英語ですが、社内に英語の壁を感じているようでしたら、お試し頂きたい手法です。

お申し込みは http://globalforce.link/?page_id=1582 でお待ちしております。

[追伸]

来年度の手帳(カレンダー)に下記勉強会の日程もお忘れなく！(^ ^)